八ヶ岳　阿弥陀北稜・赤岳主稜

日程：2009 年 1 月 24（土）～25（日）
メンバー：L 白土、伊藤（記録）

　八ヶ岳の西壁に行かない？白土さんにそう誘われたのは正月が明けてすぐの事だった。入門者向けのルートらしいが丹沢のモミソ岩くらいしか登った事のない私が冬のアルパインクライミングなどに挑戦しても大丈夫なのか？週末に広沢寺でマルチの要領を教わり、谷川での雪崩搬出トレをはさんで城山・西南カンテで仕上げをした。モチベーションはバッチリだが技術の方は？今年一番の寒波が来るなかで初のアルパインクライミングを楽しんできた。

行程
24 日　赤岳山荘 0700～1045 行者小屋 1135～1400 北稜取付き 1530　2 ピッチ目下降 1555 同取付き 1630 行者小屋
25 日　行者小屋 0600～0650 赤岳主稜取付き～1235 赤岳頂上～1335 行者小屋～1610 赤岳山荘駐車場 1 月 24 日（雪～晴）
　道の駅「小淵沢」に私の車を残置し雪の舞うなか、白土車にて美濃戸口から赤岳山荘へ向かう。四駆のレガシィは凍りついた林道をわけもなく登っていく。ほどなく赤岳山荘の駐車場に到着、待機していた小屋の方に２日分の代金２千円を支払いつつ天気などを聞く。雪は昨晩から降っているそうだがいつのまにか止んでしまい、行者小屋まではよく踏まれたトレースが付いており登りは快適だった。行者小屋ではすでに小屋周りに３張り程のテントが張られていた、私たちは少し離れた樹林帯の中にテントを設営する。近くに水場もあるので今夜は水作りをしなくてすみそうだ。昼食のパンをかじりながら登攀の準備にとりかかり不要な物を置いて出発。阿弥陀方面にはトレースは無くすぐにワカンをつけてのラッセルとなった。膝下から深い所で胸まである雪を崩し踏み固めていく。最後は急な斜面を木の幹や枝を掴みながらようやく阿弥陀北稜の取付きについた。ここまで２時間のラッセル。時間も押すので速やかに登攀開始。まずは白土さんがトップで行く。コールがきて私が続きそのままトップで行く。20m 程行くと丁度いいテラスに出た。そこからさらに上がろうか迷っていると「時間ないよ～」との声がきたので慌てて支点をとって上がってきてもらう。まだまだ経験不足でしかたないのだがボルトも 2 本打ってありピッチを

北稜までのラッセル

切るには丁度良い所だったのだ。残念ながら時間切れとなり懸垂 2 回で取付きま

で下降する。行者小屋までの帰り道で色々とレクチャーを受ける。分岐の所で下から 4 人ほどのマダムが空身で上がってくる。明日の阿弥陀への偵察らしい。トレースをつけたと言ったら凄く嬉しそうで礼を言われた。奥さん今夜差し入れ待ってるよ・・・。

夕食はかなり豪華で豚の生姜焼きに始まりジフィーズじゃない本物の牛丼でしめた。白土さんごちそうさまでした。

阿弥陀北稜取付き

1 月 25 日（日）曇り～晴

4 時半起床でヘッデンをつけ出発。気温-20℃風も強い。文三郎尾根途中の階段を上がった少し上から左へトラバース。取付きでセルフをとって休憩しているとすでに 2 パーティやってきた。さっそく白土さんトップで登攀開始。1 ピッチ目最初のチムニーは残置スリングを掴んで強引に越えた。マルチの要領で登っていく。しかし人気ルートだけに待つ時間も多く、風と寒さには閉した。ガイドに連れられたマダムもいればフリーで素早くこなす 2 人組もいる。5 ピッチ程登った頃雲が晴れ太陽が出てきた。思わず「あったけ～。」と声が出る。8 ピッチで頂上直下の雪稜に出てコンテに切り替え一気に赤岳頂上に出た。

凄い快晴と景色で登攀の疲れは吹きとんだ。握手を交わして本当に来てよかったと思った。軽く昼食をすませベースへ下る。テントを撤収し赤岳山荘へ。帰りに温泉による。山を降りてきた男達ばかりの温泉だった。

頂上小屋前で記念撮影

今度は行きたい阿弥陀岳